



～羽州街道の旅、お疲れ様でした～

みなさん、羽州街道の旅、お疲れ様でした！

ん？羽州街道の旅ってなんの事？？とお思いの方も多いのではないのでしょうか。

今回で「地域資源を活かしたまちづくり(全4回)」は終了とりますが、今回ご紹介する福島県桑折町をはじめ、秋田県旧六郷町、山形県金山町は、皆、羽州街道でつながっていたのです！

羽州街道は、奥州街道とならぶ東北の二大街道。この二大街道が分岐する重要な地がここ福島県桑折町にあるというのはご存知ですか？桑折町では、地域の宝でもある街道に目をつけ、様々な地域活動に取り組んでいます。

そこで今回は、「街道を活かしたまちづくり」と題して、桑折町での取り組みと共に街道の歴史にもせまってみます。

羽州街道と諸大名

出羽国の諸大名が江戸に参勤するための重要な道であった羽州街道は、桑折宿を起点に、小坂宿、七ヶ宿、金山宿、六郷宿等を経て、青森県の油川宿まで58の宿を数えます。

この街道は、秋田藩の佐竹氏が整備や修復に、特に力を尽くしたことから「秋田道」や「佐竹道」とも呼ばれていたそうです。しかし、佐竹氏は参勤交代の折に小坂宿に泊まることはほとんど無く、休憩で立ち寄ることが多かったとか。その佐竹氏も通った道をみなさんも歩いてみませんか？



福島河川国道事務所発行『奥州・羽州街道紀行』より

それでは、桑折の街なかを、奥州街道・羽州街道とともにご紹介していきます(^-^)/



旧伊達郡役所(国の重要文化財)
大正15年から約43年間、郡行政の役割を果たしました。



桑折町の中心部 明治時代につくられた蔵が今なお残っています

分岐点の復元工事が完了しました！



「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」で復元工事に取り組みました。



旧道の名残

半田銀山経営や新道開削など、地域発展のために尽力した早田家の邸宅脇の細い道が旧羽州街道の名残なんです！

桑折初心者も安心(*^-^*)
マップはこちら！！

羽州街道、古の小径

このガイドマップは桑折町のHPよりダウンロードしたものです。

まち歩きには欠かせないガイドマップ。ここでご紹介するのは、桑折町のホームページに掲載中の散策ガイド「羽州街道、古の小径」です。

みどころや散策ルートの紹介はもちろんのこと、トイレの場所も掲載されています。

これを持っていれば、初めて桑折を訪れる方も安心ですね！

こちらは、桑折町のホームページからダウンロードできますので、是非、ご覧になってみてください。

羽州街道以外の情報もたくさん載っていますよ！

URLはこちらです(^-^)/

■ 羽州街道、古の小径

<http://www.town.koori.fukushima.jp/sansaku-guide/index.html>



昨年の10月8日から11月6日にかけて、「奥州・羽州街道 桑折茶屋まつり」が開催されました。このまつりは、地域の熱意により実現した社会実験(主催:奥州・羽州街道桑折茶屋社会実験実行委員会)で、茶屋のほか、様々なイベントが催されました。なかでも、“桑折宿旅人気分ウオーク”は、地域の方々が昔の旅人をイメージし、着物やかつらを付けて街中を練り歩き、注目を集めていました。着ている着物や駕籠は羽州街道でつながっている山形県上山市などから借りたものもあるそうです。このような取組を通して、地域と地域の結ぶつきが強くなるんですね！



桑折・国見の歴史

はんだごてと言っではんだを加熱するための道具、見たことありますよね！？実はこれが「桑折町・半田銀山」が発祥の地という言い伝えがあるそうなんです。はんだごての『はんだ』は、半田銀山の『半田』からきているそうなんですけど・・・。

この半田銀山は、桑折・国見の人々の生活を支えていました。

佐渡金山（新潟県佐渡市）、生野銀山（兵庫県朝来市）とともに日本三大鉱山と呼ばれていた半田銀山は、大同2年(807)に開かれたとされています。江戸時代の初めには米沢藩主上杉景勝氏の代により本格的に採鉱が始まり、幕府直轄として有力な財源となっていた時代もありました。元治元年(1864)になると産出量は大幅に減少し、幕府は経営を放棄したものの、その10年後、明治7年(1874)に薩摩出身の豪商五代友厚の指導による近代鉱山として第二のスタートを切りました。明治17年(1884)に最盛期を迎えたものの、山崩れや産出量の減少により昭和25年(1950)に鉱山としての長い歴史に幕を閉じました。

今では半田銀山の歴史を知る人も少なくなりましたが、半田銀山で働いていた人の中には、地元農家の方たちも兼業として数多く参加していました。早朝から坑道で勤務する「一ノ晩」で坑道に入り、汚れた体を大風呂で落とし、午後は自分の田畑で働く・・・。厳しいながらも希望がきらめいていた、そんな時代がありました。

県北建設事務所企画制作
『元氣街道羽州街道』より



半田銀山の遺跡 女郎橋付近にその名残があり、銀山で働く男たちを、桑折宿の飯森女たちが送ってきて別れを惜しんだ場所と言われています



国見町に残る**半田銀山の坑口**
坑道は、半田沼の地下200mまで達していたそうです

みなさんがお住まいの地域の“宝物”は何ですか？

「歴史的な建物を残していきたい！」という人もいれば、「郷土料理をもっといろんな人に伝えたい！」という人もるように、一人一人思う“宝物”は異なると思いますが、そのひとつひとつを、地域の資源として認識することがまちづくりの始まりではないでしょうか。「地域資源を活用したまちづくり」をあなたも始めてみませんか？まちの未来のために・・・。



小坂宿から七ヶ宿(宮城県)へ向かう
小坂峠の難所「産坂」
お産の苦しみと同じくらいきついことから名がついたそうですが、妊娠している女性がこの峠を歩くと丈夫な子を産むことができるという意味もあるそうです。

今号の問題です！

“羽州街道”と呼ばれ始めたのはいつごろからでしょうか？
最終回はヒントなしですよ！

前号の問題の答え（ ）の中が答えです）

人工林としては国内最大の大美輪の美林は、128本もの巨木群です。ここには、大美輪杉と金山大杉の2種類の杉が植えられています。

まちづくり推進講座を開催しました！

平成18年度のまちづくり推進講座は、須賀川で実際にまちづくり活動をされている方々と、県内のまちづくりに関わっている方々が、実際のまちの課題やまちづくりの悩みを共有した上で、その解決策と実現のための提案作成をとおして、まちづくりの実践力を身に付ける連続4回講座として行いました。

3回にわたった講義による知識習得と、ワークショップによる提案作成作業の総まとめとして先月12日(日)に行った最終回では、受講生からの提案発表の後に、提案を基にした討論会を行い、参加者全員でまちづくり実践の理解を深めました。

こちらは、各チームの提案発表の成果です。詳細は下記のホームページをご覧ください(^-^)/

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/kouza.html>



Aチーム
「融合医療の里
2010」



Dチーム
「北町健康物語」



Bチーム
「さぁ!!
扉を開けてっ」



Eチーム
「おじいちゃん
と佑一君」



Cチーム
「路地裏の残念だけ
じゃないよ松尾浜蕉」



Fチーム
「けん太の街は
やさしい街」

講師を務めていただいた北原先生のお話（一部抜粋）

今回のような地元の人と外から来た人達が一緒に机を囲む形式の講座の意義・役割として、次の3点が明らかになりました。

地域のことを気付かせてくれる

取り立てて何も考えてなかった事やあまりに当たり前すぎて今まで気付いていなかったことを、外から来た人達が気付かせてくれました。

地域の良いもの、逆に問題点を再認識させてくれる

もともと素晴らしいものや地域固有の歴史や文化、反対に目を背けようとしていた問題点を指摘されることによって、地域の良さや悪いところを改めて認識させてくれました。

次の活動にまた新たな一歩を踏み出すきっかけづくりとなる

ひとつのまち育ての物語を創っていくために、違う動きをしているグループや今まで縁の無かった団体と出会ったり、話し合うきっかけとなり、新たな活動の一歩を踏み出すきっかけづくりとなりました。

編集者ひとりごと

早いもので、今年も残り1ヶ月をきりました。12月になると、とてもキレイなネオンで彩られている街をよく見かけますが、最近では自分の家を電飾で飾るホームイルミネーションも増えているようです。キラキラと輝く冬ならではの風景を眺めながら、今年一年を振り返ってみてはいかがでしょうか？

編集後記

「うつくしま、まちづくり推進レポート」(Vol.25)はいかがでしたでしょうか？これからも皆様と一緒に、より充実したものにしていきたいと思っておりますので、取り上げてほしい事例や写真、ご意見・ご感想などございましたら遠慮なくお寄せ下さい。

メールマガジン(無料)の申し込みをご希望される方は、
1. 団体会社名、2. 氏名、3. メールアドレス、4. 電話番号等(送信エラーの際のご連絡のため)、よろしければ、
5. 性別、6. 年齢を記入の上、まちづくり推進グループのメールアドレスまで希望する旨ご連絡下さい。

登録された方には、レポートの更新情報などをメールにてご案内いたします。

【発行元】

福島県土木部都市領域まちづくり推進グループ
〒960-8670(住所記載不要)

TEL 024-521-7510

FAX 024-521-7956

e-mail machizukuri@pref.fukushima.jp

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>

